



図5 人と組織を育てる諸事業

「自らが健康を保持増進する術を学び自立した住民が育つ」「地域社会を理解する医療人が育つ」「連帯と連携のシステムが育つ」の3つの教育目標を掲げた「地域医療魚沼学校」を開校した。

その事業のひとつとして「プロジェクト8」も地域への浸透が図られている。糖尿病を代表とする生活習慣病は、個々の患者が生活習慣を見直し、自らが治療に取り組まねば改善はない。つまり「医療者プロジェクト8」「連携プロジェクト8」「患者プロジェクト8」のなかで、「患者プロジェクト8」が最も重要であるといえる。「プロジェクト8」の成否は、住民・患者にいかにかにその主旨を理解してもらえるかにかかっている。

患者のみならず、一般住民を対象にした医師会主催の住民健康講座においても「プロジェクト8」の取り組みはたびたび紹介され、患者向けのチラシやポスターも一般住民に向け配布・掲示して周知を図っている(図5)。

今後に向けて

地域医療崩壊の危機が叫ばれ出して10年近く

にもなるが、いまだに山間過疎地域の医師不足は深刻である。その原因は決して新医師臨床研修制度のためではない。医師の適正配置の責務を果たさず放置し、大学の人事に頼り切っていた国の怠慢であることは疑いない。日本の保険医療制度は世界から高く評価されているが、超高齢社会を迎えたわが国の医療制度は、国民皆保険50年を経てその歪みが出てきている。

われわれは医療資源の少ない地域だからこそ、医療者のみでなく、地域住民とともに「医療を学び・守り・育てる」仕組みをつくり、「住民こそ最大の医療資源である」と考え「地域医療魚沼学校」を開校した。

糖尿病は地域医療の一部ではあるが、地域の医療保険財政に与える影響は少なくない。そして患者さん・住民の意識が大きく影響する疾病でもある。

われわれは「プロジェクト8」活動を通じ地域のありかたを考え、住民とともに地域医療を育てていきたい。

